



社員教育をしていますか

( お礼の言葉はみんなを幸せにする )

私達古田土会計グループでは毎年10月の中旬に全ての社員にお歳暮として会社が社員に南魚沼産の高級しめじの新鮮なKg贈っています。市場では4,000円位です。社員の実家から購入しているので1袋当たり3,000円が仕入価格です。今年は40袋購入しました。社員1人1人に持って帰ってもらいますが、翌朝私や社長にお礼を言う社員と何も言わない社員がいました。経営計画書に書き、10月の勉強会で「お歳暮です」と言ってきました。普通の家庭ではお中元やお歳暮をもとめてお礼の電話やメール、ハガキを出します。それなのに何のお礼も言わない社員は違和感と覚えたものです。総務に連絡して幹部から社員にお礼を言わせるように教育しました。それでもお礼を言わない社員はいるかもしれませんが気づいてくれた社員は常諺を身に付けてくれたと思っています。社員の方から本当に良かった、子供がとても喜んでいました父母も毎年楽しみにしています等感謝の言葉をいただくと私も社長もお歳暮を社員に送ってよかった。来年も続けようと思います。お礼の言葉は送った人も喜ばせます。また社員には、お返しは一切にはないと言っています。社員に負担をかけたくないからです。

社員教育が必要なものに給与、賞与があります。お客様の話を聞くと、今年になって電気代、食料品等の値上げによる物価上昇で社員の生活が苦しくなっているので、月給を一律2万円アップしたとか、一時金として1人当たり3万円出したと云うです。私は社長に聞きました。「社長何人の社員がお礼の言葉を言ってくれましたか」社長は「1人もいません」と残念そうに答えてくれました。私は社長に「それは社長の教育が右っていないから」です。社長は直接社員に言えないから幹部教育をして、幹部社員から見本としてお礼を言わせその姿を社員に見せ、幹部から社員にお礼を言わせるように指導するのです。社長は社員の生活を思い少しでも多くの給料賞与を払える会社にする責任があります。ええ、苦しい経営のなかで資金調達し給与、賞与を払っています。社員は不満ではなく感謝の言葉で応えてほしいのです。

12月は一般的に賞与の月ですが、古田土会計では冬の賞与と決算賞与を一緒に現金で支給しています。社長が社員1人1人の机に行き、感謝の言葉を言って渡します。社員を社長の前に並ばせてお礼を言わせるから渡すとはしていません。社長が社員のところへ行ってお金で渡すことに意味があると思っています。こういう物の方が社員が喜んでくれます。社員教育で①社員の給料ーお客様がいたかく②社長の給料ー社員がいたかく、③社員の賞与ー社長がいたかく、といます。社員の給料は30人の会社も5,000人以上の会社も2割位差ですが、賞与は2.5倍位の差があります。「中小企業で賞与の差は経営者の経営能力の差です」皆さんが世間相場より高い賞与がいただけるのは社長が勝れた経営をしているから」ですと教育をしています。社員は「税理士法人古田土会計賞与実態調査」で中小企業の実態がわかっているので自分の賞与がいかにかわります。ですから社員は私や社長にサンクスカードでお礼を言ってくれます。社長は気をよくして来年はもっと多くの賞与を払いたいと思います。お礼を言うことは社員のプラスにもなります。賞与や決算賞与を払うときに社長が社員に「皆さんのおかげで利益が出て、たくさん賞与を出すことが出来ました。感謝します」と言います。この意味は、会社の利益は社長の戦略が正しかったからです。どの社員もみんな頑張っています。社長が感謝しているのは、皆さんが社長の方針を実行してくれたことに対してです。社員の皆さんは社長のおかげで多くの賞与がもたえています。社長に感謝してお礼を言て下さいと私が社員教育しています。

令和5年1月11日PM11分より第41期経営計画発表会がWebで行なわれ古田土、満  
ます。当日のみ視聴です。後では見直しせん。是非参加して下さい。